

2016 年度 日本生活学会事業計画（案）

（2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日）

I. 事業活動

- ・ 第 43 回総会・研究発表大会開催 2016 年 5 月 21 日(土)22 日（日）立教大学新座キャンパス
- ・ 『日本生活学会ワークショップシリーズ』第 3 巻 出版と HP 掲載にむけた活動
- ・ 生活学ヘリテージ・プロジェクトの成果公開

II. 役員会開催

1. 理事会
2. 『生活学論叢』vol.29、30 編集委員会
3. 今和次郎賞 2016 選考委員会
4. 日本生活学会研究論文賞 2016 選考委員会
5. 日本生活学会博士論文賞 2016 選考委員会

III. 出版物発行・メールニュース配信

- ・ 2016 年 6 月 「第 43 回研究発表大会梗概集」2016
- ・ 2016 年 9 月 『生活学論叢』vol.27
- ・ 2017 年 3 月 『生活学論叢』vol.28
- ・ 日本生活学会メールニュースの配信
- ・ 『日本生活学会ワークショップシリーズ』第 3 巻作成

IV. 委員会活動

1. 総務委員会 委員長 野村知子

- (1)総会、理事会他運営
- (2)庶務・財務・会計の管理
- (3)生活学論叢への学会記録掲載

2. 学術委員会 委員長 有末 賢

- (1)立教大学において第 43 回日本生活学会研究発表大会を開催する。
- (2)研究者の育成、支援の一環として、日本生活学会博士論文賞の募集を行う。

3. 『生活学論叢』編集委員会 委員長 塩月亮子

- 『生活学論叢』第 29 号、第 30 号の刊行
- 第 29 号 2016 年 9 月発行予定
- 第 30 号 2017 年 3 月発行予定

4. 事業委員会 委員長 石川 初

- (1)2015年度に発足、事業委員会として支援した「生活学プロジェクト」を引き続き実施する。
- (2)事業委員主体のセミナー・シンポジウムの企画開催、他団体との交流
- (3)既往の各種事業に対する状況確認・制度支援を行う

5. 情報委員会

委員長 森栗茂一

(1)学会ホームページサーバーおよびフェイスブックの管理

(2)日本生活学会メールニュースの配信

生活学会からの情報、生活学会に寄せられた情報を会員向けにメールで適宜に発信する。

(3)英語版学会ホームページの作成

英語版学会ホームページを作成する。

6. 生活学ヘリテージ・プロジェクト

代表者 小林多寿子

(1)2016年度は、生活学ヘリテージ・プロジェクト成果の最終公開作業に取り組む。

(2)成果の公開—学会のホームページと学会誌において成果を公開し、日本生活学会の歴史を留めて、あわせて学術資料として学会員が活用可能になることをめざす。

7. 『日本生活学会ワークショップシリーズ』作成プロジェクト

代表者 黒石いずみ

(1)第43回大会において以下のワークショップを行う。大会に参加する各大学や研究機関、研究者の方々に日頃の調査研究教育活動で行っているFWの情報を事前に提供いただき、皆で共有する試みを行なう。大会時に提供いただいた資料を会場の部屋で投影し、そこに質問用紙を用意して、大会参加者間の交流を図る。大会に参加できなかった会員にもアンケートでFW情報を募り、それも合わせて冊子を編集し、印刷会社に委託して1000部製作する。

(2)資料は無料で論叢と併せて会員に配布し、また学会に参加している会員に教育や活動に用いてもらえるよう、次年度の大会時に無料で配布する。余分の部数の保管管理経費については、国際文献社との調整を行い、委員会で責任を持って対処し、長期的な視点で会員に還元する方法を考える。

V. 研究会活動

1. 生活情報化研究会

代表者 佐藤佳弘

(1)研究会の開催

回数：4回／年度

時期：2016年6月・7月・9月・2017年3月を予定

場所：東京都内（港区麻布台で開催の予定）

形式：外部講師を招いて講演、およびディスカッション

(2)研究会冊子の作成 2016年10月に Vol.19 を発行

2. 国土開発史の研究会

代表者 真島俊一

(1)「伝統的な住まいと近代的な住まい」に関しては研究会を3回ほど予定。伝統的な住まいは全国で空き家状態が過大で、大きな過疎化を見せているため、公開研究会開催ではこのことに視点をあて、文化財環境を含めての地域集落や町の大きな喪失現象の問題点を浮上させたい。

(2)道具の名称と分類の研究

高度成長期以前の道具を民具とすれば、現代は文化的にも民具喪失の時代に入っている。これら民俗技術の喪失は文化財としての消耗だけでなく、現代社会の文化的縮小をも意味している。こうした意味で提案的な研究会やシンポの開催を検討する。

(3)和船調査

大規模木造の架構を示す大板構造の木造文化の普及と消滅についてのレポートを作成する。

以上